

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
 担当課長名：高松 諭

事業名	一般国道46号 盛岡西バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：岩手県盛岡市永井第一地割字高屋 至：岩手県盛岡市上厨川字前潟			延長	7.8 km	
事業概要						
一般国道46号は岩手県盛岡市から秋田県秋田市に至る総延長101.8 kmの主要な幹線道路である。 盛岡西バイパスは岩手県盛岡市永井第一地割字高屋から盛岡市上厨川字前潟に至る延長7.8 kmの4車線（一部6車線）道路である。						
S59年度事業化 (H14年度事業延伸)		S59年度都市計画決定 (H21年度変更)		S61年度用地着手		S62年度工事着手
全体事業費		約468億円		事業進捗率 (令和5年3月時点)	約76%	供用済延長 7.8 km (暫定)
計画交通量 32,500 台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 4.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 98/964億円 事業費：83/905億円 維持管理費：15/59億円 更新費：/億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 411/1,379億円 走行時間短縮便益：367/1,223億円 走行経費減少便益：43/132億円 交通事故減少便益：1.2/25億円	基準年 令和5年		
感度分析の結果						
【全体事業】交通量変動：B/C=1.2~1.7（交通量 ±10%） 事業費変動：B/C=1.4~1.4（事業費 ±10%） 事業期間変動：B/C=1.4~1.5（事業期間 ±20%） 【残事業】B/C=4.0~4.4（交通量 ±10%） B/C=3.9~4.6（事業費 ±10%） B/C=4.1~4.4（事業期間 ±20%）						
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減 （渋滞損失時間：318.2万人時間/年、渋滞損失削減率：約2割削減） ②安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性向上 （盛岡市前潟地区～岩手医科大学附属病院現況35分⇒将来32分） ③災害への備え ・岩手県地域防災計画において、国道46号が緊急輸送道路（第1次路線）に指定						
他13項目に該当						
関係する地方公共団体等の意見						
○岩手県知事の意見 1「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。 2 一般国道46号盛岡西バイパスは、盛岡都市圏の交通の円滑化による都市環境の改善や東北縦貫自動車道へのアクセス向上などの効果が期待されることから、令和7年度の開通に向けて、コスト縮減にも最大限に配慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。						
事業評価監視委員会の意見						
・対応方針（原案）の事業継続は妥当である。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。						

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 昭和59年度新規事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約76%（令和5年3月末時点）
- ・ 平成25年度全線暫定供用（延長7.8km）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 令和7年度の供用を目指して事業を実施中

施設の構造や工法の変更等

- ・ 仮設材設計の見直しによるコスト縮減を図っている。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 盛岡市内の交通混雑の緩和、救急医療施設へのアクセス向上等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。